



## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月7日

上場会社名 (株)東京放送ホールディングス  
コード番号 9401 URL <http://www.tbsholdings.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 俊爾

問合せ先責任者 (役職名) 経理局経理部長 (氏名) 伊藤 博信

TEL 03-3746-1111

四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日

配当支払開始予定日

平成25年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	171,803	△0.4	4,376	△10.6	5,664	△3.2	2,899	—
25年3月期第2四半期	172,410	4.0	4,897	105.7	5,850	58.6	△5,947	—

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 15,704百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 △10,844百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	18.93	—
25年3月期第2四半期	△39.07	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	580,726		369,224			61.0
25年3月期	559,626		344,473			58.7

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 353,960百万円 25年3月期 328,465百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	7.00	—	11.00	18.00
26年3月期	—	8.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	352,300	△0.0	16,500	1.9	17,400	△1.5	8,100	△11.7	51.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	190,434,968 株	25年3月期	190,434,968 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	28,490,831 株	25年3月期	38,226,794 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	153,168,975 株	25年3月期2Q	152,209,200 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
4. 補足情報	12
(株)TBSテレビ第2四半期事業収入の内訳	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

日本銀行の「金融経済月報」によりますと、わが国の景気は緩やかに回復しており、中でも個人消費は、雇用・所得環境に改善の動きがみられ、引き続き底堅く推移しております。企業の業況感も改善を続けており、わが国経済も緩やかな回復を続けていくと思われまます。

当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は1,718億3百万円（前年同期比0.4%減）、営業利益43億7千6百万円（同10.6%減）、経常利益56億6千4百万円（同3.2%減）、四半期純利益は28億9千9百万円、前期に比べ投資有価証券評価損が大幅に減少したこと等もあり、88億4千6百万円の損益の改善となりました。

#### <放送事業セグメント>

放送事業セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は1,047億1千7百万円（前年同期比0.2%増）、営業利益は、6千6百万円（前年同期は12億2百万円の営業損失）となりました。

放送事業収入のうち、株式会社TBSテレビの当第2四半期連結累計期間のタイム収入は435億9百万円（前年同期比3.6%減）となりました。ネットタイムセールスは、「世界陸上モスクワ大会」の放送がありました。また、「ロンドンオリンピック2012」、「サッカー「UEFA EURO2012」」など大型のスポーツ中継番組が多かった前年実績を上回るまでには至りませんでした。一方、スポット収入は413億1千6百万円（同2.5%増）となりました。4月、5月こそ前年実績を下回りましたが、6月以降回復基調にあり、第2四半期連結累計期間では増収となりました。TBSテレビの在京5局間のスポット売上シェアは前年と変わらず19.6%（推計）でした。

TBSテレビの上期26週の平均視聴率は、全日帯6.3%（前年同期比0.2ポイント減）、ゴールデン帯9.9%（同0.7ポイント増）、プライム帯9.9%（同0.6ポイント増）とゴールデン帯、プライム帯で前年同期を上回りました（ビデオリサーチ調べ 関東地区）。

特筆すべきは、日曜劇場「半沢直樹」が社会現象になるほどの大ヒットとなったことです。放送開始以降、最終回まで一度も視聴率を落とさず、全10話の平均視聴率は28.7%、特に、最終回の平均視聴率は42.2%を記録し、連続ドラマでは、今世紀最高視聴率を塗り替えました。この他、ドラマでは、金曜ドラマ「なるようになるさ。」が平均視聴率で13.0%をとり、堅実な成績でした。レギュラーのバラエティ番組では、「爆報! THEフライデー」「ぴったんこカン・カン」「中居正広の金曜日のスマたちへ」などの視聴率が引き続き好調で、TBSテレビを代表するバラエティ番組としての存在感を示しております。スポーツ中継番組では「世界陸上モスクワ大会」のプライムタイム視聴率平均で13.0%でした。これは前回の韓国・テグ大会、前々回のドイツ・ベルリン大会を上回るものでした。この他、4月の放送では延べ75万人が参加したセカンドスクリーン連動エンタテインメント「リアル脱出ゲームTV」を8月に放送したところ、全国から延べ172万人が参加しました。テレビのリアルタイム視聴を促進し、次世代のメディア接触へのヒントを得られたと考えております。

株式会社B-S-TBSは、売上高70億1千万円（前年同期比5.5%増）、営業利益10億5千5百万円（同5.1%減）となりました。タイムセールスが好調だった他、スポットセールス、ショッピングも堅調に売上を伸ばしております。7月から送出設備を更新したことに伴い減価償却費が増加したため、営業利益は減益になりましたが、現在最も成長しているメディアであることに変わりはなく、引き続きグループ各社とのシナジーを最大限まで高めてまいります。

ラジオ部門では、株式会社TBSラジオ&コミュニケーションズが8月のビデオリサーチ首都圏聴取率調査においてもトップを記録し、2001年8月調査以来、12年2ヶ月、73期連続で首都圏ラジオ首位の座を守り続けております。中でも、安住紳一郎出演の「日曜天国」が高い聴取率を獲得したほか、平日午後放送の「たまむすび」は同時帯単独首位となり、TBSラジオは平日朝から夕方までの全てのワイド番組で首位となりました。ハウジング等の関連事業収入の伸びもあり、当第2四半期連結累計期間の売上高は53億9千3百万円（前年同期比3.6%増）、営業利益は1億6千2百万円（同47.4%増）でした。ラジオをとりまく状況は依然厳しいものがありますが、コストコントロールを行い、収益の確保を目指してまいります。

#### <映像・文化事業セグメント>

映像・文化事業セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は595億3千万円（前年同期比1.1%減）、営業利益9億7千8百万円（同60.2%減）となりました。

催事・興行では、「アメリカン・ポップ・アート展」が国立新美術館で開催され、9月末現在で13万人を超える方が来場、また、9月6日からは「システィーナ礼拝堂500年祭記念 ミケランジェロ展-天才の軌跡」が国立西洋美術館で開催されており、好評を博しています。ステージ関係では、東急シアターオーブでブロードウェイ・ミュージカル「ドリームガールズ」やミュージカル「ロミオ&ジュリエット」、赤坂ACTシアターでは坂東玉三郎主演「アマテラス」が開催され、いずれも好評でした。

映画事業では、昨年テレビドラマで高視聴率を記録した「ATARU」の続編「ATARU~THE FIRST LOVE&THE LAST KILL」が9月に公開され、大ヒット中です。

赤坂サカスでは、「夏サカス2013～笑顔の扉～デリシャカス～番組グルメでおもてなし」と題して、過去最大のテレビ・ラジオ番組と連動した「食」を楽しんでいただくイベントを実施しました。総入場者数も約133万人にのばりました。

メディアビジネスでは、CS事業のTBSチャンネル2が開局1周年になり順調に契約者数を獲得しております。オンデマンド事業では、ドラマ「半沢直樹」の見逃し配信サービスがこれまでの記録を塗りかえるヒットとなりました。海外事業においては、「SASUKE」のフォーマット販売など定番タイトルが引き続き好調でした。また、ベトナムのベトナムテレビジョン（VTV）と共同制作したドラマ「The Partner～愛しき百年の友へ～」は9月に両国で同日放送され、日本とベトナムの国交樹立40周年に花を添えました。

DVD事業では、映画「ATARU」の公開に併せて1月放送の特別篇「ATARUスペシャル」をブルーレイ/DVDで発売したところ大ヒットとなりました。また、かねてから要望がありましたドラマ「魔王」のブルーレイ版も期待通りの売上を達成しました。

ライセンス事業でも、ドラマ「半沢直樹」の関連グッズが記録的な売上を記録しております。中でも、『倍返し饅頭』はTBSストア（東京・赤坂）では開店前から行列ができ、入荷即売が連日続きました。

#### <不動産事業セグメント>

不動産事業セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は75億5千6百万円（前年同期比2.9%減）、営業利益33億3千5百万円（同8.5%減）となりました。

平成20年2月に開業した赤坂サカスですが、各種の興行や「Sacas広場」で開催される様々なイベントを通じて文化・エンタテインメントの発信地としての人気を確立しております。今後もTBSグループや番組をより身近に感じていただくための体験イベントの開催などに加えて、赤坂の街と連動した地域密着イベントにも力を注いでまいります。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は5,807億2千6百万円で、前連結会計年度末に比べ211億円の増加となりました。受取手形及び売掛金が43億9百万円減少、有形固定資産が減価償却等により19億3千4百万円減少した一方、現金及び預金、有価証券を合わせた手許資金が128億1千5百万円増加、保有する株式の含み益の増加等により投資有価証券が161億9千6百万円増加、子会社株式の追加取得等によりのれんが17億1百万円増加したこと等によります。

(負債)

負債合計は2,115億2百万円で、前連結会計年度末に比べ36億5千万円の減少となりました。保有する株式の時価の上昇に伴い繰延税金負債が68億5百万円増加した一方、支払手形及び買掛金が30億4千5百万円減少、未払金が25億4千9百万円減少したこと等によります。

(純資産)

純資産合計は3,692億2千4百万円で、前連結会計年度末に比べ247億5千1百万円の増加となりました。自己株式の処分等により自己株式が126億5千2百万円減少したことに加え、その他有価証券評価差額金が121億7千1百万円増加したこと等によります。

この結果、自己資本比率は61.0%、1株当たりの純資産は2,185円70銭となっております。

(連結キャッシュ・フロー計算書に関する定性的情報)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は708億4千2百万円で、前連結会計年度末に比べて28億1千万円増加しました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、109億8千5百万円の収入になりました（前年同期は144億6千9百万円の収入）。税金等調整前四半期純利益55億3千2百万円に加え、減価償却費72億2千7百万円、売上債権の減少額43億9百万円等の増加項目が、法人税等の支払額33億5千3百万円、仕入債務の減少額30億4千5百万円等の減少項目を上回ったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、169億4千7百万円の支出になりました(前年同期は143億円の支出)。有価証券の取得による支出(純額)99億9千4百万円、有形固定資産の取得による支出62億3千7百万円、関係会社株式の取得による支出34億8千3百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、86億9千9百万円の収入になりました(前年同期は31億6千8百万円の支出)。自己株式の処分による収入118億8千3百万円、配当金の支払額16億7千8百万円、長期借入金の返済による支出6億円等によるものです。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は想定をやや下回る水準で推移したものの、コストコントロールが順調に進んでいることなどから、平成25年5月10日に公表いたしました業績予想を、各利益段階で上回りました。

一方、通期の業績見通しにつきましては、売上高はタイム収入が当初の想定を下回る水準で推移する見通しであることなどから、前回予想を下回る見通しですが、営業利益、経常利益及び当期純利益につきましては、前回予想と同額を予想しております。

こうした状況を勘案し、平成25年5月10日に公表した業績予想を下記の通り修正し、平成25年11月5日に公表いたしました。

また、配当予想につきましては、平成25年5月10日に公表した予想に変更ございません。

なお、通期の当期純利益金額の予想は据え置いておりますが、自己株式を処分したこと等により、1株当たり予想当期純利益算出のための分母となる期中平均株式数が変動したことに伴い、1株当たり予想当期純利益を変更しております。

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円	銭
平成25年5月10日発表(A)	356,000	16,500	17,400	8,100	53	22
平成25年11月5日発表(B)	352,300	16,500	17,400	8,100	51	41
増減額(B-A)	△3,700	—	—	—	—	—
増減率	△1.0%	—	—	—	—	—
前期実績	352,351	16,188	17,671	9,173	60	27

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	68,243	20,059
受取手形及び売掛金	37,568	33,259
有価証券	—	60,999
商品及び製品	7,174	7,273
番組及び仕掛品	8,149	7,822
原材料及び貯蔵品	581	605
前払費用	6,477	5,031
繰延税金資産	5,044	4,422
その他	6,030	5,270
貸倒引当金	△139	△149
流動資産合計	139,130	144,594
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	192,312	194,422
減価償却累計額	△85,098	△87,831
建物及び構築物（純額）	107,213	106,590
機械装置及び運搬具	83,518	86,434
減価償却累計額	△74,992	△75,414
機械装置及び運搬具（純額）	8,526	11,019
工具、器具及び備品	24,116	25,817
減価償却累計額	△21,965	△22,898
工具、器具及び備品（純額）	2,150	2,918
土地	84,554	84,490
リース資産	6,625	6,357
減価償却累計額	△3,787	△3,781
リース資産（純額）	2,837	2,575
建設仮勘定	6,748	2,500
有形固定資産合計	212,030	210,095
無形固定資産		
ソフトウェア	4,768	4,694
のれん	22,360	24,062
リース資産	347	314
その他	1,702	1,731
無形固定資産合計	29,178	30,801
投資その他の資産		
投資有価証券	164,463	180,659
長期貸付金	283	269
繰延税金資産	1,706	1,659
長期前払費用	949	798
その他	12,613	12,572
貸倒引当金	△728	△724
投資その他の資産合計	179,286	195,233
固定資産合計	420,496	436,131
資産合計	559,626	580,726

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	34,814	31,768
1年内返済予定の長期借入金	31,200	31,200
未払金	11,431	8,882
未払法人税等	3,982	2,234
未払消費税等	684	370
未払費用	5,761	5,486
役員賞与引当金	191	80
送信所移転対策引当金	1,080	486
その他の引当金	1,134	972
その他	5,809	4,770
流動負債合計	96,090	86,253
固定負債		
社債	50,000	50,000
長期借入金	26,000	25,400
退職給付引当金	13,431	14,308
リース債務	1,590	1,358
繰延税金負債	12,681	19,487
その他	15,358	14,693
固定負債合計	119,062	125,248
負債合計	215,152	211,502
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	54,986	54,986
資本剰余金	60,254	59,512
利益剰余金	228,882	230,102
自己株式	△48,973	△36,321
株主資本合計	295,150	308,280
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,468	45,639
繰延ヘッジ損益	△46	111
為替換算調整勘定	△106	△71
その他の包括利益累計額合計	33,314	45,680
少数株主持分	16,008	15,263
純資産合計	344,473	369,224
負債純資産合計	559,626	580,726



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	172,410	171,803
売上原価	123,351	121,141
売上総利益	49,058	50,662
販売費及び一般管理費	44,161	46,286
営業利益	4,897	4,376
営業外収益		
受取利息	36	27
受取配当金	1,636	1,736
持分法による投資利益	13	139
その他	442	451
営業外収益合計	2,129	2,354
営業外費用		
支払利息	664	567
固定資産除却損	46	98
その他	465	399
営業外費用合計	1,176	1,066
経常利益	5,850	5,664
特別利益		
投資有価証券売却益	1	1,026
固定資産売却益	—	41
関係会社株式売却益	—	6
特別利益合計	1	1,074
特別損失		
送信所移転対策損失	—	1,100
投資有価証券評価損	8,770	63
減損損失	534	42
退職給付制度改定損	67	—
特別損失合計	9,372	1,206
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△3,520	5,532
法人税、住民税及び事業税	1,223	1,633
法人税等調整額	551	584
法人税等合計	1,775	2,217
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△5,295	3,314
少数株主利益	651	415
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△5,947	2,899

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△5,295	3,314
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,727	12,172
繰延ヘッジ損益	206	168
為替換算調整勘定	△28	48
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	0
その他の包括利益合計	△5,549	12,389
四半期包括利益	△10,844	15,704
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△11,480	15,264
少数株主に係る四半期包括利益	635	439

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△3,520	5,532
減価償却費	6,772	7,227
長期前払費用償却額	122	133
減損損失	534	42
のれん償却額	802	802
投資有価証券評価損益(△は益)	8,770	63
退職給付費用	199	876
固定資産除却損	46	98
送信所移転対策引当金の増減額(△は減少)	—	△593
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△127	5
受取利息及び受取配当金	△1,673	△1,763
支払利息	664	567
持分法による投資損益(△は益)	△13	△139
投資有価証券売却損益(△は益)	△1	△1,026
売上債権の増減額(△は増加)	5,167	4,309
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,026	204
前払費用の増減額(△は増加)	2,624	1,477
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,055	△3,045
その他	△948	△1,951
小計	15,338	12,823
利息及び配当金の受取額	1,670	1,769
利息の支払額	△637	△566
法人税等の還付額	472	312
法人税等の支払額	△2,375	△3,353
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,469	10,985
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の純増減額(△は増加)	△7,995	△9,994
有形固定資産の取得による支出	△5,212	△6,237
無形固定資産の取得による支出	△513	△1,018
投資有価証券の取得による支出	△49	△75
投資有価証券の売却による収入	1	4,032
関係会社株式の取得による支出	—	△3,483
その他	△532	△171
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,300	△16,947

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	10,800	—
長期借入金の返済による支出	△11,750	△600
自己株式の処分による収入	—	11,883
配当金の支払額	△1,524	△1,678
少数株主への配当金の支払額	△53	△285
その他	△640	△621
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,168	8,699
現金及び現金同等物に係る換算差額	△14	73
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,013	2,810
現金及び現金同等物の期首残高	78,801	68,031
現金及び現金同等物の四半期末残高	75,788	70,842

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成25年8月29日開催の取締役会決議に基づき、(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ、三井物産(株)、(株)毎日放送及び(株)WOWOWとの間で、各社との業務上の関係強化のための資本業務提携契約を締結するとともに、平成25年9月13日付で、各社を割当先とする第三者割当による自己株式9,772,200株の処分を実施しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間において、単元未満株式の買取等による増加と合わせ、自己株式が126億5千2百万円、9,735,963株減少しております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額 (注2)
	放送	映像・文化	不動産	計		
売上高						
外部顧客への売上高	104,461	60,167	7,781	172,410	—	172,410
セグメント間の内部売上高 又は振替高	783	2,216	3,327	6,327	△6,327	—
計	105,245	62,384	11,108	178,738	△6,327	172,410
セグメント利益又は損失(△)	△1,202	2,459	3,643	4,901	△3	4,897

(注) 1. セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額 (注2)
	放送	映像・文化	不動産	計		
売上高						
外部顧客への売上高	104,717	59,530	7,556	171,803	—	171,803
セグメント間の内部売上高 又は振替高	873	1,964	2,789	5,627	△5,627	—
計	105,590	61,495	10,345	177,431	△5,627	171,803
セグメント利益	66	978	3,335	4,380	△4	4,376

(注) 1. セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

#### 4. 補足情報

㈱TBSテレビ第2四半期事業収入の内訳

(単位：百万円)

	前第2四半期 (24.4.1~24.9.30)	当第2四半期 (25.4.1~25.9.30)	増 減		前事業年度 (24.4.1~25.3.31)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
テレビ	91,500	90,985	△514	△0.6%	184,247
タイム・番組制作	45,122	43,509	△1,613	△3.6%	88,595
スポット	40,292	41,316	1,024	2.5%	83,655
その他	6,084	6,159	74	1.2%	11,995
事業	13,099	13,527	428	3.3%	26,036
不動産	1,447	1,469	22	1.6%	2,887
合計	106,047	105,982	△64	△0.1%	213,172